

特別養護老人ホームを開設

イトジユ 地元の要望受け、地域に貢献

総合廃棄物処理業のイトジユ（三重県四日市市、伊藤靖則社長、☎0569・3331・3

252）は、介護施設の不足に悩む地元からの要望を受け、地域貢献の一環として「社会福祉法人桜コミュニティ」を設立。4月1日

に特別養護老人ホーム「さくらスマイル」をオープンした。デイサービスセンターと居宅

介護支援センターも併設しており、夏までには入所者が定員に達すると見込んでいる。

四日市市浜一色町の海蔵川沿いで、桜並木を見渡せる美しい景観の中に新設した特別養護老人ホーム「さくらスマイル」（定員60人）は、敷地面積4000

・46平方メートル、24時間看護師常駐で、起床・就寝時間といった入居者の生活リズムを尊重した介護ケアスタイルである「ユニットケア」方式で運営する。敷地内には、デイサービスセンター「サクラさくら」（定員25人）と、居宅介護支援センター「さくら」を併設している。

同社は1943年の創業以来、金属スクラップや廃プラ、電子基板等の有価物、産廃特

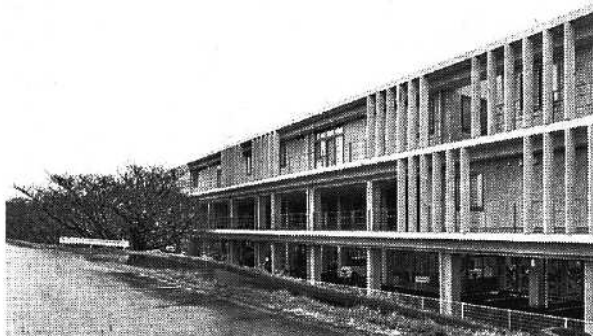
管含む）全般を扱い、処理のプランニングから収集運搬、リサイクルまで総合的な事業を展開。全国に広がるネットワークを活用した廃棄物の一元管理を手掛け、提案型のコンサルティング業務を強化している。

法人設立にあたっては、2014年からプロジェクトチームを立ち上げ、一から全て作りで準備を進めてきた。福祉業界の離職率の高さを考慮して、特に「働きやすい環境づくり」に力を入れてお

り、オープン前に1カ月かけてスタッフの研修を実施するなど、充実した人材教育体制を整えた。伊藤社長は、

「4代にわたって事業を行ってきた地元に対し、何か貢献できれば」との思いで新規事業に参入した。現在62人の

スタッフのチームワークも良く、満床に向け、さらなるスキルアップを図っていききたい」と話している。



景観の美しい川沿いに新設した福祉施設



スタッフが働きやすい環境づくりに力を入れる